

会議名	地域連携推進会議	記録者	武藤 沙耶香
日 時	令和8年3月23日 13時30分～15時30分	場 所	大和更生園 職員室
参加者	・横手市まちづくり推進部 大雄地域課長 斉藤伸		
	・横手市立大雄小学校 教務主任 栗田康		
	・大和更生園利用者代表 鎌田美夜子	・グループホーム代表 竹内道雄	
	・ユー・ホップハウス保護者代表 渡部定四郎	・グループホーム保護者代表 小田嶋淳子	
	・大和更生園管理者 内桶圭時	・ユー・ホップハウス管理者兼サビ管 大塚聡	
	・大和更生園サビ管 佐藤里帆	・グループホームサビ管 藤田敏幸	・事務員 武藤沙耶香

内容	地域連携推進会議について 施設等と地域が連携することにより利用者と地域との関係づくり、理解等の促進、施設等が提供するサービスの透明性と質の確保、利用者の権利擁護を達成することを目的としている。外部が事業運営の現場を直接確認できることにより事業所のサービスの質が確保され、利用者によってより良いサービスが受けられるよう会議を運営したい。 大和更生園の事業について 大塚：ユー・ホップハウスは平成6年より保護者を中心として小規模作業所として開設し、平成30年に指定管理を受け、令和6年には市から譲渡された。事業の内容は生活介護、就労継続支援B型と多機能型事業所としており、定員は生活介護20名、就労支援30名である。現在登録53名となっているが、多機能型のサービス管理責任者が持てる利用者さんは62名迄となっているので定員より多くなっている。生活介護の平均年齢は39.9歳、就労継続支援B型は48.2歳。障害支援区分の平均は4.5、就労継続支援は2.7となっており就労継続支援は受給者証があれば区分がなくても利用できる。利用している市町村は横手市、湯沢市、美郷町、羽後町となっている。 佐藤：昭和54年に開設、サービスは生活介護、施設入所支援、短期入所、日中一時支援となっている。生活介護、施設入所については日常生活及び社会生活に必要な支援、身体介護、生活援助、日中活動の提供、健康管理などを24時間行っている。定員50名、現在男性23名、女性25名が在籍しており、平均年齢60歳、最年長85歳、最年少25歳。平均在園期間21年となっている。短期入所は定員1日5名、見守り支援など短期間宿泊できるサービス、日中一時支援事業は定員1日5名、見守りや日中活動などの日帰りのサービスとなっており、どちらも一定数の利用がある。大和更生園の主な行事については誕生日会、移動販売、お花見やドライブ、環境美化や田植えなどあり、様々な行事を通して地域に根差した施設を目指している。
----	---

グループホーム施設概要

藤田：グループホームはやがしわ地区1棟、かみたむら地区1棟の計2棟となっている。やがしわは平成22年、かみたむらは平成23年に事業開始し定員数はそれぞれ5名、現在やがしわは5名、かみたむらは4名在籍している。介護サービス包括型というサービスを提供しており、主な内容は共同生活における相談や日常生活の援助と利用者は平日事業所に通所をしているため日中活動の連絡調整や社会生活上の援助をしている。かみたむらについて全員男性で最少年齢45歳、最高年齢75歳で平均年齢は65歳。やがしわは最年少52歳、最年長72歳、平均年齢61歳となっている。障害者区分はやがしわは区分2が2名、区分3が3名で平均2.5、かみたむらは区分2が4名で平均2となっており、在籍期間はやがしわは最短3か月、最長15年、平均は7年。かみたむらは最短4年、最長14年、平均11年となっている。市町村は横手市7名、湯沢から2名の計9名。平日は作業所や就労Bに通っているが、土日は買い物や食事、月に一度の誕生会など行っており、楽しんでもらえるよう活動をしている。また各地域の祭りや行事に参加したりと地域との交流を図っている。

内桶：障害者支援施設の入所支援は夜のサービス提供、日中活動は生活介護という形となっており、ユー・ホップハウスは通いの施設となっている。またグループホームは地域の方々と共同して生活していけるよう支援している。

意見交換

横手市大雄地域課長：グループホームに泊りの職員がいないことに驚いた。また施設がまったくの民家だったことも知らなかったので勉強になった。

藤田：入所施設から地域移行という形でグループホームへの移行となり、結果男子10名に決まった。その後市の交渉によりやがしわ地区にある空き家を使用することになったが、家の状態が酷く大和更生園の職員による修繕を行った。一方かみたむらの方はそのようなことはなく差ができてしまったが、入居者の方々は今住んでいるところが一番楽しいと言っている。

大雄小学校教務主任：同じ地区の中に施設が4か所あるが、各施設に通っている利用者さん、こちらから出向く世話人の方と施設間の連携がよく機能している、安心感のある施設という感じがした。緊急時が気になったが、利用者さんが出来る範囲内で動けるような設備、指示等がありそこがしっかり整っていたのでこれも上手くいっている点だと感じた。目指すところは自立だと思うが、あまり自立と強く抑え込んでしまうとなかなか自立が出来ないということも考えられる。適度に役割を与えることにより、利用者さんの自信を持って次に繋がっていけるのではないかなと思う。また就労支援B型だけでなく、社会福祉施設を利用される方は予想ですが年々増えてきているのではないかな、そうした方々は一般就労を目指しているのだろうがなかなかできない状況であると思う。そうした繋ぎの部分はどうなっているのか。

大塚：今年度から支援学校在学中に就労選択支援ということで評価を受けることになっている。その評価によって就労支援A型B型と適正なサービスを受けながらステップアップしていくという形に制度上整ってきている。

内桶：A型の就労支援の一番のネックとして最低賃金を支払わねばならないが、それを支払えるだけの売り上げがなかなか見込めない。そこはどこの事業所も悩んでおり、仕事を持ってくるために従業員は奔走している。

大塚：色々なハードルや課題があるが、今年度のユー・ホップに関しては25000円程に上げられる状況になっており働いている利用者さんに還元できるよう取り組んでいる。その先に一般就労が可能な方がいれば対応したいということでイベント等に出店し販売の経験を積んでもらっている。

最後に

内桶：会議は年に一回の開催が義務付けられている。来年は早めに開催したいが、今の役職で小学校さんと地域局さんをお願いしたい。

障がい者支援施設 大和更生園